

令和 3 年度第 1 回羽島市健幸づくり施策検討委員(会議要旨)

日 時	令和 3 年 8 月 3 日 (火) 午後 1 時 30 分～2 時 20 分
場 所	羽島市役所 本庁 4 階 委員会室
出 席 者	<p>(委員) 出席者 15 名</p> <p>田中 吉政(羽島市医師会会長)、林 和郎(羽島市自治委員会理事)、河合 悟(羽島歯科医師会会長)、林 良三(羽島薬剤師会会長)、高木 豊(羽島市スポーツ協会会長)、稲葉 静代(岐阜保健所長)、山田 洋子(岐阜県立看護大学教授)、浅井 廣志(羽島市民生委員児童委員協議会会長)、鈴木 登司雄(羽島市老人クラブ連合会会長)、安藤 賢治(西部幼稚園長)、横山 政司(羽島市小中学校長会代表)、清水 剛(羽島市 P T A 連合会代表)、渡邊 修(羽島市総合型地域スポーツクラブ代表)、不破 直子(羽島市食生活改善連絡協議会会長)、山村 美佐子(公募委員)</p> <p>(事務局) 6 名</p> <p>松井 聡(羽島市長)、横山 郁代(健幸福祉部 子育て・健幸担当部長)、橋本 詩子(健幸福祉部次長(兼) 子育て・健幸課 健幸担当課長)、衣斐 則子(子育て・健幸課 健幸担当課長補佐(兼) 保健指導係長)、赤嶺 真理(子育て・健幸課 健幸増進係長)、浅野 稚沙子(子育て・健幸課 健幸増進係保健師)</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 「元気はしま 21(羽島市第 2 期健康増進計画)」最終評価に向けたアンケートについて</p> <p>—事務局より資料に基づき説明—</p> <p><質疑応答等></p> <p>(委員) 羽島高等学校の 3 年生とは羽島市民以外も含まれるか。 (事務局) 含まれる。</p> <p>(委員) 成人世代の回答率が低いことが気になるため、回答率を上げるような工夫をお願いしたい。 (事務局) 回答したいと思える内容にすることや、周知を十分させていただく。</p> <p>(委員) 成人世代の回答率を上げるためには、小中学生の親世代にアンケートを配布してはどうか。郵送では回答率が少ないと考える。 (事務局) 最終評価であるため、これまでと同じ条件下で実施していきたいと考える。特定の階層のサンプリング率が高くなると、成人全体</p>

の統計データとならないため、層化無作為抽出を実施する。回答率を上げるために、周知方法や先進事例について担当課で研究する。

(委員)今年度、GIGA スクール構想により、全生徒にタブレットが配られ、学校ではアンケートをタブレットで実施している。集計も一瞬でできるため、事務局の負担も減るのではないか。ぜひ検討していただきたい。

(事務局)タブレットでの回答を検討する。

(委員)成人世代の回答の年齢層は把握しているか。回答率が低い世代への工夫をしてはどうか。

(事務局)年齢別の回答率を確認し、低い層に対する工夫を検討する。

(委員)中間評価における歯科に関する項目は「目標達成◎」がほとんどである。最初から目標設定が低いのではないか。児童生徒のう歯所有者率は治療済の歯も含む。実際に担当している学校では、小学校6年生のDMFT指数(虫歯を経験した歯の数)は、一人あたり0.2本。永久歯の虫歯はほとんどない。ほとんどカリエスフリー(虫歯・治療済の歯が1本もない)状態になっている。この表現だと、一般市民は「こんなにたくさん虫歯があるのか。」となりかねない。これは健康日本21の表現をもとに、羽島市も同様の表現をしているが、今後は表現方法を検討してはどうか。

(事務局)最終評価では表現は変わらないが、次期計画の際には検討する。

(委員)自分がアンケートを回答するとしたら、文章が多いことが目立つ。普段から文章に触れていない者としてはめんどろうだと感じる。

(事務局)調査内容・回収方法等、再度検討する。

4 閉会